

# 「横綱」の個展によせて

文・妹尾 河童  
(舞台芸術家 エッセイスト)  
 絵・林 五和夫

『少年H』を読まれた方なら「横綱」というニックネームで登場している林五和夫少年をご存知だろう。僕が長楽小学校に入学した時から友人で、神戸二中を卒業するまでの十一年間、彼と一緒にいた。その後もずっと親しく交遊が続いているから、六十八年来の親友である。小学校の頃「横綱」と呼ばれていたのは、体格もよく相撲が強く、神戸の小学校の間で勇名が轟いていたからだ。いま彼を見ると、それほど大男の感じが無いが、当時は見上げるような頼もしさがあった。ただ強いだけでなく絵も上手だったから、僕は彼に同類の親しさを感じていた。

しかし温和な彼のほうは、ヘソ曲がりな僕の言動に我慢することやフォローに困ったことが多かっただろうと思う。彼は子どもの頃から、人に優しく面倒見のいい男だった。それは後年も全く変わらなかつた。兵庫県庁に勤め、文化行政に手腕を発揮していた頃も、定年退職後の今も、交流のあった文化人や芸術家をはじめとする多くの人から「林さんに世話になりました」という言葉を聞く。これを聞くたびに、ガキの頃からの彼を知る僕は、「ハヤシ君らしいな」とニヤニヤしてしまう。

ところが、二〇〇〇年の九月、病気とは縁の

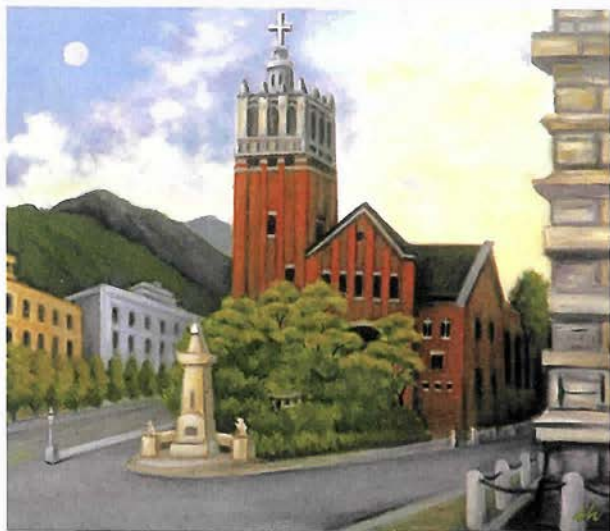
ない彼から、「胃ガンの手術をして入院しているんや」と電話がかかってきたときは驚いた。さつそく六甲アイランド病院へ見舞いに行くと、ベッドに寝ていた彼が笑顔で「これからは、新しい命をもうたと思って、一日一日の貴重な時間を大事にして生きていきたい」といった言葉が印象的だった。

しばらくして、こんな手紙をくれた。

「ガンは完治宣言のない病気。いつ再発するかもしれないことを視野にいれ、それでも前向きに充実した生活を楽しみたい。その為に子ども頃から好きだった絵を、五年間に五十点描き貯めようと思う。五年後の二〇〇六年の春に『喜寿に生きる感謝の風景画展』を開きたい。人に見せられるような絵やないかもわからんけど、元気に生きている証として見てもらえれば……」と書いてあった。

過日、神戸二中・三十六回生の同窓会に出席するため帰郷したとき、彼の家に立ち寄って、描き上がっていた絵を見せてもらった。なんとすでに五十点を遙かに超えていた。彼は「人に見てもらえるような絵では……」と言っていたが、どうしてどうして「ぜひ見て欲しい絵だ」と僕は感じた。「絵は人を表す」というが、彼の誠

実な人柄が画面に滲み出ているイイ絵である。  
それらがずっと並ぶ個展会場に足を運び、



昔の栄光教会 F10

前向きに生きている林五和夫君の元気な姿にカ  
ンパイしたい。



白き雲湧くユカリに(旧神戸二中兵庫高校) M15

■ 喜寿に生きる感謝の風景画(昼の月)

# 林五和夫展

出品作品80展

2006年4月18日(火)～23日(日)

午前11時～午後7時(最終日4時)

ギャラリーミウラ

●ギャラリーミウラ  
神戸市中央区中山手通1丁目8-19  
北野坂・正家そば(本車)北  
☎078-322-0668

## 林 五和夫

元兵庫県理事、県文化協会理事長  
現ふるさとひょうご創生塾塾長  
神戸芸術文化会議副議長  
兵庫・神戸CSの会長

## 插花

未生流家元 肥原碩甫  
嵯峨御流 吉田泰巳

主催 ふるさとひょうご創生塾神戸交流会  
兵庫・神戸CSの会  
協力 洋画グループ「るらん」

木は  
こころ

## 第14回

# 木彫はちのす会 作品展

彫り目の痕は、手づくりの証。木彫は、手と木の対話から生まれる芸術だ。

3月30日(木)～4月4

日(火)、さんちかホールでおこなわれる「第14回 木彫はちのす会作品展」は、そんな木彫作品の力作が集う展覧会。今回は3年ぶりの作品展で、はちのす会に所属する全国の木彫家が、小箆箆やレリーフ、鏡や人形など一人一作

を出展するばかりでなく、会のメンバーが力を合わせ、共同で制作した木彫のメリーゴランドや音楽隊といった大作も会場をにぎわせる予定。特にメリーゴランドは実際に動くというから楽しみだ。

「はちのす会」は、木彫家の渡辺一生さんが創設した木彫家の会で、人と人とのつながりを大切にしたとの思いからその名が付けられた。昭

和34年からの歴史がある。

会長の渡辺一生さんは、焼け野原の神戸の街で木彫を志した。「戦後の混乱期、独学ではじめました。拾ってきたウイスキーの瓶でボトルシップをつくり、それが人気を呼びましてね」と振り返る。それから60年あまり、現在は娘さんの渡辺二笙さんが副会長として、その技と心を確かに引き継いでいる。

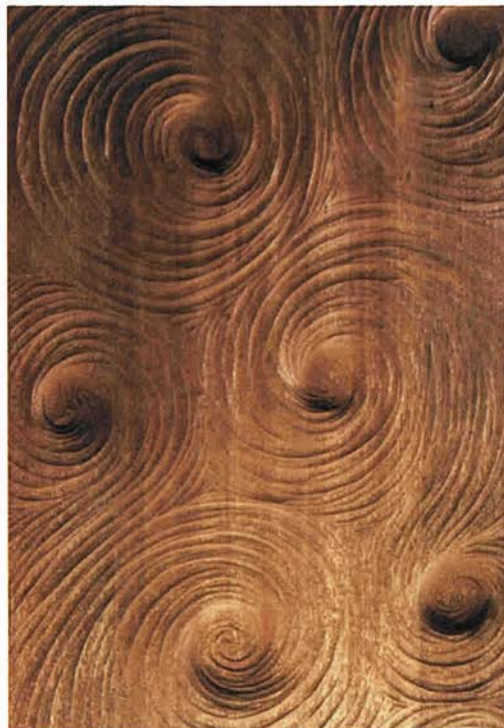
木彫の魅力を二笙さんに訊ねてみた。「表現するプロセスが楽しいのです。そして夢中になれる時間を味わえる喜びですね」と、瞳を輝かせた。「自分の手でつくった作品を、自分の手で使う。これもまた贅沢なことです」と一生さん。人類の歴史を振り返ると、原始時代、いや、きっとそれ以前から、木は人間の生活を支えてきた。人類にとって心から安心でき、親しみを覚えるこの素材に人の手で魂を吹き



渡辺一生さん(左)と二笙さん(右)



「こんにちわ」渡辺二笙作



「渦」渡辺一生作

インフォメーション

## 第14回 木彫はちのす会 作品展

期間：3月30日(木)～4月4日(火)

10時～19時30分(最終日は～18時)

会場：神戸三宮 さんちかホール  
神戸市中央区三宮町1-10-1

お問い合わせ：木彫“はちのす会”本部

☎0798-23-3300 <http://www2u.biglobe.ne.jp/~w-nisyou/>

込めば、愛着もひとしおだるう。  
使用する素材には、木肌がきれいでやわらかい菩提樹を多く用いるとか。木には生命の温もりが宿る。仏陀が光明を得た木なら、その重みはひとしおだらう。  
手に馴染み、時とともに、そして使うごとに味が出る木彫の作品。命の通う、心の通う作品を、作品展で見つけてみては。

# santica リニューアルオープン クリアー&コンフォート

神戸三宮の玄関口となるショッピングタウン「さんちか」が、  
神戸空港の開港に合わせて、2月10日にリニューアルオープン。

さんちかは、1965年10月1日のオープン以来、昨年10月で40周年を迎えた。神戸空港の開港に合わせて、2月10日にリニューアルオープンすることとなった。

リニューアルのコンセプトは、クリアー&コンフォート（明るく心地よい空間づくり）。主なリニューアルポイントは、眩いばかりに明るくなった「エントランスゾーン」、天井をガラスと光でシンプルにデザインされた「さんちか夢広場」、ユニバーサ

ルデザインを取り入れた「さんちかホール」。そして、バリアフリーに重点を置いたトイレも清潔感と高級感にあふれている。

リニューアルを記念してさまざまな催しも。「さんちかホール」では、神戸空港就航7都市の特産品展や旅行券も抽選でプレゼント。「さんちか広場」では、40周年記念のテーマソングを作詞・作曲したばんばひろふみの公開ラジオ生放送の他、パレオタイムデリーの故郷テル二県から「愛の使節」が

来神し、中世の音楽と衣装を披露し、来場者から拍手喝采を浴びた。

2月には、神戸ポートライナーが延伸し、いよいよ神戸空港が開港。10月には、神戸新聞会館ビルも完成予定と神戸三宮の導線も大きく変化し、利用者の増加が予想される。その玄関口となる「さんちか」のリニューアルは、神戸のもてなしの心をそのまま表現しているかのよう。



東條隆裕さんちか名店会会長



梶本日出夫神戸市助役(中)  
小松大作神戸地下街(株)社長(右)



ばんばひろふみの公開ラジオ





ファミリア 岡崎晴彦社長と共に



ファミリア 岡崎忠彦さん



FlashBe BENIYA



セリザワ 芹澤豊男会長(左)と芹澤豊成社長(右)



kameya



さんちかホール



UCC Cafe Comfort



UCC Cafe Comfort



千人代官

田中まこの  
神戸が撮っても好き②



今年の撮影件数はおよそ300件!!  
今日も神戸のどこかでロケが!?



「神戸の人気ロケ地」

これまで神戸フィルムオフィスが支援した映画やテレビドラマを紹介してきましたが、今回は神戸で人気のロケ地を発表したいと思います。みなさんが考える「神戸らしい風景」とは、どんな風景でしょうか。異人館？それとも港でしょうか。では、神戸で「物語が生まれそうな場所」とは、どこでしょう。

通常、映画やドラマのロケ地というのは、脚本をもとに選定されます。たとえば、脚本に「街を見下ろす公園」と書いてあれば、制作者はその条件を満たす公園を探しますし、「古びたアパートの一室」と書いてあれば、古いアパートを何軒も探します。そして、条件を満たすロケ地を数カ所見て回ったあと、実際にロケを行う場所を決めるのです。

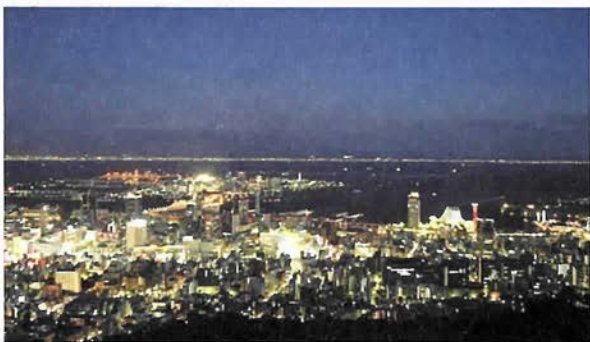
同じ条件を満たしているロケ地が複数見つかった場合は、より作品のイメージに合っている場所を選ぶのは当然。でも、それだけではありません。撮影する際の一つのロケ地と次のロケ地との移動時間も大事な要素。限られた時間の中

でなるべく長く一カ所で撮影するため、そして、一日になるべく多くのロケ地で撮影するためです。ほかに、撮影機材を積んだ車両が近くまで行ける、駐車スペースが確保できる、交通量が少ない、広いアングルで撮れる、照明を置きやすい、役者さんの控え室があるなど、様々な要素を考慮します。

でも、そんな条件の中でもっとも重要なのは、その場所や施設が撮影に協力的であること。どんなにイメージに

合っていても、撮影許可が下りなかったり、使用できる場所や時間が限定されていたり、良い作品は作れません。神戸が撮影に適している最大の理由は、街が撮影に協力的であることなのです。

そんな神戸でよくロケ撮影が行われる場所といえば、まず神戸らしい景色が見える公園。例えば、高台にあつて神戸のまちと海を見下ろせる灘丸山公園では、「メモリー・オブ・ラブ」、「パパ・トールド・ミー」、日経スペシャル「ガ



市街地からも近くロケでもよく使われる「ビーナスブリッジ」、有名な夜景デートスポットとしても知られている







人気シリーズ「早乙女千春の添乗報告」(TBS)のメリケンパークでのロケ



日経スペシャル「ガイアの夜明け」(テレビ東京)が撮影された神戸市灘区の丸山公園、天気の良い日は大阪から神戸の大パノラマがひろがる

「デザイナー」(MBS)の撮影が行われたポートアイランド北公園はポートアイランドの最も北にあり、対岸にはみなと神戸の風景がひろがる

「デザイナー」(MBS)の撮影が行われたポートアイランド北公園はポートアイランドの最も北にあり、対岸にはみなと神戸の風景がひろがる

イアの夜明け」「女刑事みずき」など、多くのテレビドラマやテレビ番組が撮影されました。ハーブ園やビーナスブリッジでも、神戸の街や夜景を見渡しながらのデートシーンをよく撮影しています。

公園といえば、海の近くにある公園も人気のロケ地。たとえば、ポートアイランドの北公園は、キラキラ光る海とその向こうに見える神戸のまちを撮るには絶好のスポットです。六甲アイランドのマリンパークも、目の前で貨物船が行き来するのを眺められるウォーターフロントの公園。西のほうへ行くと、海と明石海峡大橋を撮影するのに最適な舞子公園があります。

もちろん、公園に限らずウォーターフロントでのロケは多数。韓国ドラマ「ガラスの華」ではメリケンパークからハーブ園にかけての風景が、何度も画面に映し出されましたし、今年公開されるウルトラマンの映画でも、神戸港がいつばい登場する予定です。

施設の中で人気なのが、東



「デザイナー」(MBS)の撮影が行われたポートアイランド北公園はポートアイランドの最も北にあり、対岸にはみなと神戸の風景がひろがる



御影公会堂では「女の一代記シリーズ～悪女の一生・芝居と結婚した女優・杉村春子の生涯」(フジテレビ)が撮影された



妹尾河童さん原作の「少年H」(フジテレビ)は神戸高校がロケ地に選ばれた



リバーモール、マリナーパークなど六甲アイランドもロケ地として人気



東灘区の旧乾邸で撮影された「赤い月」(テレビ東京)、他にも多くの作品が撮影される人気のロケ地

田中まこ／1955年大阪生まれ。カリフォルニア大学ロサンゼルス校で2年学んだあと国際基督教大学編入・卒業。司会、DJ、通訳、翻訳などを手がける。2000年9月より神戸フィルムオフィス代表。

神戸フィルムオフィス  
神戸市中央区港島中町6-9-1  
神戸国際観光コンベンション協会内  
☎078-303-2021  
<http://www.kobefilm.jp>

イラスト 川田教子

灘区にある旧乾邸と御影公会堂。どちらもその古さが人気で、多くの作品で使われています。学校でのロケも、神戸では数多くあります。「走れ！イチロー」では須磨学園、「きょうのできごと」では育英高校、「少年H」では神戸高校がロケ地として選ばれました。

街中のロケ地としては、北野や旧居留地、南京町に根強い人気があるのももちろんのこと、「濱マイク」「事件記者冴子」といったドラマで撮影が行われたのは、東門街。六甲アイランドのリバーモールやHAT神戸は、その近未来的な雰囲気喜ばれます。

何でも揃った神戸はまさに、「街ごとオープンセット」。ロケ地の宝庫です。

# 神戸のお嬢さん

優美でつつましい  
聖母のような  
お嬢さん

小谷妙子さん

(神戸女学院大学 人間科学部二回生)



小谷妙子さんは、工学博士のお父様ゆずりの知性と、こうべ子ども文庫連絡会の代表を務められるお母様ゆずりの聡明さを持つおしとやかなお嬢さんです。

趣味はピアノと読書という彼女は、神戸女学院大学ではコーラス部に所属。奥ゆかしく、いつも大人しく穏やかで、上品な微笑が印象的です。将来は専攻している心理学を通して、社会に貢献したいとか。芯が強く努力家の彼女なら、きっと夢が叶うでしょう。



推薦者 福田 淳  
マンマミーアカフェ

(移情閣にて)  
ヘアメイク du:c(垂水区)

# 神戸のお嬢さん

パティシエールも

私の夢と語る

神戸のモデルさん

太田由美子さん

(モデル)



甲南女子短期大学を出られた明るいお嬢さん。細くて今にも折れそうな身体を、しし座生まれの明るい性格で支えている。

私の企画した震災復興十周年記念行事、三千人のワルツの夕べに大正ロマンを思わせる白い衣装で会場を歩いていただいた。礼儀をわきまえた美人顔のお嬢さんで、着物を召されても美しいだろうと想像してしまう。パティシエールの夢も抱いているとか。神戸の未来を支えるすばらしい女性であってください。



推薦者 岡本真穂  
詩人

(弓弦羽神社にて)  
衣装協力 La DISCO Volante

ご贈答佳品に！  
おみやげに！ 地方発送承り中！

神戸元町にうまいもの発見！  
新鮮な豚肉と秘伝のタレに  
「たっぷり」と漬け込み、  
特製の直火釜で「じっくり」と焼きあげた  
手造りの焼豚

**美味探求**

ほんとうの  
手造り味わう。

**A003**  
手造り焼豚 (1本)

**A005**  
手造り焼豚 (2本)

**AB05**  
手造り焼豚 (1本)と  
豚肉味噌漬 (10枚)

**C005**  
手造りロース焼豚 (1本)

**期間限定 ABH6**  
手造り焼豚 (1本)と  
特選ロースハム (1本)と  
豚肉味噌漬 (5枚)

**新生会社のギフト通信販売**

 **新生公司**

●元町本店 神戸市中央区北長狭通3-3-2  
●電話でどうぞ…  
●**078 (391) 4011** ●**078 (391) 5859**

ウェイパー  
**味覇は味の王様**



数千年の歴史の中で極められた本場の醍醐味が、  
家庭で味わえる。それが味覇。

鶏、豚などの特選スープを基本に、新鮮野菜のエッセンス・高級油脂など20種類のスパイスを調合し、味・コク・風味の3拍子揃った高級中華スープの素。

また中華料理だけでなく、和・洋の料理にも使え、味の世界が広がる、まさに神戸にふさわしい品である。本場中国の秘味が家庭で花開く。

**株式 廣記商行**  
南京町本店  
神戸市中央区元町通1-1-4  
TEL.078-331-1114

 本場の味をご家庭に…  
あなたも好き？

神戸ことはじめ発行

### 神戸市中央区周辺

● 1 元町駅 ● 2 三宮駅 ● 3 元町駅 ● 4 三宮駅 ● 5 元町駅 ● 6 三宮駅 ● 7 元町駅 ● 8 三宮駅 ● 9 元町駅 ● 10 三宮駅 ● 11 元町駅 ● 12 三宮駅 ● 13 元町駅 ● 14 三宮駅 ● 15 元町駅 ● 16 三宮駅 ● 17 元町駅 ● 18 三宮駅 ● 19 元町駅 ● 20 三宮駅



港町として開けた街、神戸にはさまざまな「発祥」があるのをご存じだろうか？

神戸っ子出版では、2月16日の神戸空港開港を記念して、発祥の地をめぐる神戸観光を提案するガイドマップを発行した。

中央区界隈、ポートアイランド、灘、六甲、有馬の各エリアの地図に、それぞれの地域の「はじめて」スポットが、発祥の解説とともに掲載されている。

コーヒー、蒲鉾、洋家具、ゴルフ、温泉…。実はみんな神戸にルーツを持っている。マップ片手に記念すべき第一歩の足跡を訪ね古き良き時代を振り返れば、新しい神戸の魅力が見えてくるだろう。

また、「神戸ことはじめ」として、ジャズや洋菓子、カラオケ機器やパーマなど神戸で生まれたエトセトラを紹介。「ハニー」と「なるほど」が満載だ。

神戸空港ターミナルビルのほか、各観光案内などで配布しているが、部数に限りがあるので悪しからず。

追悼・仰木彬氏

# 「がんばろう」をありがとう

神戸の恩人が、逝った…

1995年の秋…

一人の知将が宙を舞い

震災でうちひしがれた神戸の街が

歓喜に包まれた。

あれから10年あまりで

永遠の別れの日が来るとは、

あまりにも早すぎる…

あまりにも辛すぎる…。

「がんばろう神戸」という

あの時の励まし

復興への活力となったことを

私たちは忘れない

忘れることができない。

夢を、勇気を、感動を、

ありがとう、仰木監督。





1月21日、スカイマークスタジアムにて仰木オリックス・バファローズ前監督の「お別れの会」がおこなわれ、選手や関係者、ファンなど数多くの人々が、グラウンドに設けられた祭壇に白い花を手向けた。

今季からオリックスの一員となった清原和博選手は「仰木さんは野球人として、男として尊敬できる人」と語り、「仰木さんの遺志を受け継ぎ、すがすがしい気持ちでグラウンドに立ちたい」と決意を新たにしました。今季オリックスへ移籍し「やっと恩返しができると思っていたのですが…」と言葉を詰まらせた中村紀洋選手は、恩師の遺影に向かって「ゆっくり休んでください」と頭を下げた。チームリーダーの谷佳知選手は、亮子夫人との間に1月に誕生した子供について「監督もきっと天国で喜んでくれるでしょう。監督のことは子供にも伝えたいと思います」と語った。遺影を見あげてしばらく微動だにしなかった田口壮選手（セントルイス・カージナルス）。「人生の父のような存在でした」と生前の仰木氏を偲び、最後に、「早すぎますよ!」と声を震わせた。

宮内義彦オーナーは「震災の年、『今年こそ神戸でやるんだ!』と声をあげたのが仰木監督でした」と振り返った。

矢田立郎神戸市長は「1995年の優勝は、神戸にとって忘れることができません」と語り、神戸大使としても活躍した仰木氏を偲んだ。「スタジアムでおこなわれたこのお別れの会は、仰木さんらしいものでしたね」と井戸敏三兵庫県知事。「がんばろう神戸」のワッペンをつけ2年連続優勝したことは、被災地を大きく励ましてくれました」としんみり語った。

ファンや一般参列者の列は絶えなかった。祭壇の向こうのバックスクリーンには思い出のシーンが映し出され、故人の多大なる功績を讃えた。ベンチの「指定席」にユニフォームと遺影が。統合球団として生まれ変わったオリックス・バファローズの指揮を執った最後のユニフォーム。背負った「70」という数字がまさか享年になろうとは…。

心よりご冥福をお祈りいたします。

